

[成果情報名] 180m 以深の稚魚調査結果の整理

[要 約] 7 月の 180m 以深の稚魚調査は、マダラ、マガレイ、ヤナギムシガレイ、ソウハチおよびアカガレイの当歳魚量を把握するために有効であると考えられた。

[部 署] 山形県水産試験場・海洋資源調査部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 研

[キーワード] 底魚稚魚調査、マダラ、マガレイ、ヤナギムシガレイ、ソウハチ、アカガレイ

[背景・ねらい]

本県では 4 月から 10 月の期間中に鶴岡市加茂沖水深帯 80m から 160m（水深 20m 毎）の海域において、網口開口板付自家用餌料曳網を用い、当歳魚を対象とした稚魚調査を長年にわたって続けている。入網する主要魚種の当歳魚は、マダラ、ハタハタ、キアンコウ、カレイ類等があるが、マダラ、ハタハタに関しては 7 月以降の調査でほとんど入網しなくなることが確認されており、水温の上昇とともに更に深場へ移動しているものと考えられる。深場へ移動したマダラおよびハタハタの当歳魚量を把握するため、平成 26 年度(2014 年度)調査より、調査水深帯を 180m 以深へ拡大した。その結果および過去のデータから、調査時期と当歳魚の出現水深帯について整理した。

[成果の内容・特徴]

- 1 期間別水深帯別に、主要魚種当歳魚の採捕状況をまとめた（表 1）。なお、恒常的に調査を実施している範囲として、5～6 月（春期）の 80m～140m、7 月（夏期）の 100m～240m、8～10 月（秋期）の 100m～160m の結果を表示している。なお、各主要魚種の当歳魚の判断は、表 2 に示す基準で行った。
- 2 7 月の 180m 以深調査で、1 網あたり 10 尾以上採捕されたことのある魚種は、マダラ、マガレイ、ヤナギムシガレイ、ソウハチ、アカガレイの 5 種であった。水温が上昇する 7 月に調査水深帯を 180m 以深に拡充することで、これらの当歳魚の分布状況をより詳しく把握することが可能となった。
- 3 アカガレイは今回の調査拡充により、水深 240m で多く採捕されることが新たに確認された。
- 4 採捕尾数は極めて少ないものの、今回の調査拡充によりスケトウダラの当歳魚の分布が確認された。
- 5 その他のハタハタ、キアンコウ、ムシガレイ、アカムツ、ニギスについては、一部 180m 以深でも出現が確認されてはいるものの、主な出現水深帯は 160m 以浅であり、今回の調査拡充が有効な魚種ではないことが示唆された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 今回の調査結果は、今後の底魚類稚魚調査の実施計画に使用される。

[具体的なデータ]

表1 主要魚種当歳魚の調査水深帯別季節別の出現状況 (2004~2018 年度調査結果)

(春: 5~6月、水深80m~140m 夏: 7月、水深100m~240m
秋: 8月~10月、水深100m~160m)

調査水深帯	主要魚種	ハタハタ	マダラ	キアンコウ	マガレイ	ヤナギムシガレイ	ムシガレイ	アカムツ	ソウハチ	ニギス	アカガレイ	スケトウダラ
	調査時期	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋	春夏秋
80m		◎	◎	・	・	○	◎			◎		
100m		◎	◎	・	・	○	◎	◎	◎	◎		・
120m		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
140m		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
160m		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
180m		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
200m			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
220m			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		
240m			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	

- ・ : 出現が確認された水深帯
- : 1網あたり5尾以上の採捕があった水深帯
- ◎ : 1網あたり10尾以上の採捕があった水深帯

網掛け部: 調査実施なし

表2 各主要魚種の当歳魚判断体長

主要魚種	当歳魚判断体長
ハタハタ	60mm 以下
マダラ	180mm 以下
キアンコウ	5~6月: 100mm 以下
	7月: 130mm 以下
	8~10月: 160mm 以下
マガレイ	65mm 以下
ヤナギムシガレイ	60mm 以下
アカムツ	80mm 以下
ムシガレイ	80mm 以下
ソウハチ	87mm 以下
ニギス	51mm 以下
アカガレイ	52mm 以下
スケトウダラ	150mm 以下

[その他]

研究課題名: 底魚類漁獲動向予測技術開発

予算区分: 県単

研究期間: 平成30年度 (平成26~30年度)

研究担当者: 太田 稔章

発表論文等: なし